

2011年10月26日、7回目の地域運動交流集会在福岡市で開催され、組合員とワーカーズなど約900人が参加しました。

前日に行われたファイバーリサイクル学習会に続き、パキスタンのアル・カイルアカデミー校長のムザヒルさんから現地のようにすについて報告(詳細は本紙6・7面)がありました。

また、2011年3月に起きた東日本大震災後、グリーンコープが漁業復興支援を行っている宮城県石巻市蛤浜の区長亀山秀雄さんの挨拶、共生地域創造財団の事務局からの支援状況の報告(詳細は別紙裏面)がありました。さらに、東京電力の原子力発電所での事故による深刻な放射能汚染が広がる現実をきちんと知り、私たちはどう行動していくべきかを考えるために、藤田祐幸さんによる脱原発講演会(詳細は本紙10面)もありました。

より豊かに広がっているグリーンコープ運動を参加者一同で共有すると共に、厳しい現実もある中で、一人ひとりができることをしながら、協同の力を生かして活動していくことを確認する集会となりました。

# 添い 拓くために

**参加者**  
組合員  
ワーカーズ  
代理人 ネットワーク  
職員他

**来賓**  
厚生労働省 社会・援護局  
地域福祉課長  
矢田 宏人さん

**グリーンクラブ**  
相談役 川上 工さん  
他7人

**縁をつむぐ会**  
相談役 田島 いづきさん  
副会長 後藤 美穂さん  
パキスタンのアルカイルアカデミーより  
校長ムザヒルさん他3人  
宮城県石巻市蛤浜より  
区長の亀山秀雄さん  
昭子さん

共生地域創造財団より  
事務局の小笠原啓太さん  
岩手事務局の大関輝一さん

## 実行委員長挨拶



グリーンコープ共同体代表理事 田中 裕子さん

2005年からはじまったグリーンコープの地域運動交流集会は今年で7回目となります。組合員とワーカーズが一堂に会して、グリーンコープの食への運動や地域福祉などについて報告しあい、交流を図ることで、組合員とワーカーズ、ワーカーズ間の連携を深めていく場となりました。

今回は、組合員、各業種のワーカーズ、代理人・ネットワークなど、約900人が参加しています。「グリーンコープ運動が地域に寄り添い、助けあい、支えあって未来を拓くために」という今回のテーマのように、ここに集う一人ひとりの出会いと想いを集めて力強くすすんでいきたいと考えています。本日の集いが明日からの生きる力となり、希望ある未来に向かうことができる会になることを願っています。

## 抱樸館福岡報告

### 抱樸館福岡 開設から1年



社会福祉法人グリーンコープ 副理事長 奥田 知志さん

抱樸館福岡は、「抱樸館を支える会」をはじめ、たくさんの方の支援をいただきながらこの1年を過ごしてきました。その間に、多くの方がここから新たな人生を踏み出しています。

この1年の歩みの中で私たちが胸を張ってお話できることの一つとして、地域との連携があります。抱樸館福岡は、単に居住や就職の支援だけでなく、地域とのかかわりや人と人とのつながりも含めた人生支援、そして私たちが共に暮らす地域の再生をめざしています。開所時に地域の方々から贈られた桜の木も、今年の春、ほんの数輪ですが花を咲かせました。

これまでの入居者の総計は400人を超えます。その過半数が20~50代のいわゆる働き盛りの年齢層で、就労支援が今後の大きな課題となります。現在、ファイバースイクル事業と連携して入居者の就労体験をすすめています。その一つとして、今回の大震災で組合員から託された支援物資の仕分けも担いました。入居者にとっては、支えられるばかりの立場から、被災地を支える側にまわることが、社会復帰のきっかけにもなりました。

非正規雇用の職場で「お前だけでなく、誰でもいい」と言われ続けた多くの若者が、「誰でもいいから自分の存在を認めてほしい」と叫んでいます。同じ思いは私たちの心の中にもあります。「誰か」を探し求める多くの叫びに、「私たちがいる」と応えるために、抱樸館は存在します。そこには痛みも伴いますが、ぜひ一緒に、その叫びに応えていきましょう。

## 単協報告

### お米と野菜産地との 交流を生かして



みやざきの発表の様子

4月の「お米と野菜のスタート集会」を皮切りに、組合員と生産者との交流をすすめています。お米をもっと身近に感じる取り組みの一つとして、120人の組合員がバケツで稲を育てることに挑戦中。稲刈りがとても楽しみです。「九州むらせ視察交流」では、毎日産地から届く米の徹底した品質管理を知り、精米メーカーの思いが伝わってきました。秋の組合員の日では、生産者から草取り作業の大変さや、安心安全なお米作りの工夫を聞きました。質問もたくさん出て楽しい交流ができました。各地区委員会は今後、「お米と野菜を食べよう」のテーマに沿って組合員と生産者が交流し、絆を深め、利用を呼びかけていきます。

## みやざき

### 最初のお店のオープンに向け、 楽しい夢がいっぱい



さかの発表の様子

「お店共同購入をはじめ、さかの今年度の大きな方針。ワーカーズ学習会や店舗視察などを行い、1号店はキープ組合員が100人いる鳥栖センターと決めました。ワーカーズ立ち上げの中心メンバーも決まり、来年2月のオープンに向け、どんなお店にしたいか、どんな商品を置きたいかなど、いろいろなイメージを出しあっては盛りあがっています。「本を置いたり、メーカーさんとの交流会をしたりすれば、みんなが来てくれるようなお店になるかな」など夢が膨らみます。秋のグリーンパーティーでも組合員からたくさん意見や要望が出されました。お店の名称は組合員から募集し、みんなが決めたいと思っています。オープンに向け頑張ります。

## さが

## おおいた

### 「お店改革プロジェクト」 がスタート。もっとお店を 良くしたい!



おおいたの発表の様子

おおいたにある4つのお店に共通する課題点と各店舗の課題を解決し、もっとお店を良くしたいと、2010年秋に「お店改革プロジェクト」がスタートしました。理事会あげての取り組みによって、高城店ではか買えなかったワーカーズのパンが他の3店舗でも買えるようになりました。いずれは共同購入でも出せるようになればと考えています。山積する課題を解決し、私たちのテーマ「愛する人に食べてもらいたいパン」を作り続けたいと思っています。プロジェクトでの検討で、パン部門の経費の課題が解決するなどの改善もすすんでいます。組合員とワーカーズが共に、組合員が来なくなるお店づくりに頑張ります。

## 共同購入ワーカーズ連絡会



共同購入ワーカーズは713人。商品の配達やキープ、地域組合員の対応など従来の業務に加えて、物流業務や総務・経理などデポすべての業務を担うようになってきています。今夏、かごしまでグリーンコープ初の男女協同ワーカーズ「ピース」が誕生しました。「みんなで作る最高の職場」を目標に目安箱の設置や持ち回りでニューズ作成など頑張っています。ふくおかとくまもとでは、すべての支部で共同購入ワーカーズが業務を担うまでに広がっています。今後もワーカーズの主体性を大切にした、新たな働き方をめざしていきます。



2011年度グリーンコープ地域運動交流集会

グリーンコープ運動が地域に寄り  
助けあい支えあって未来を

福祉関係ワーカーズ



地域福祉を担うワーカーズ

生活のいろいろな場面で活動するワーカーズの様子を熟演

「住み慣れた地域で、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが心豊かに自分らしい生活を送ることが出来る」そんな願いでスタートしたグリーンコープの地域福祉を、ワーカー約2500人を担っています。「ふくし情報でんわ」「ケアプランセンター」「在宅福祉」「福祉用品店舗」「子育てサポート」「食事サービス」「デイサービス」「小規模多機能ホーム」「グループホーム」「有料老人ホーム」と、さまざまなサービスがあります。生活のいろいろな場面で、組合員が困ったときに安心して相談できるように、これからも生活者の視点とワーカーズのやわらかい手で、福祉サービスを提供していきたいと思ひます。

まとめ



福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会 理事長 江島 真弓さん

今年3月に起きた大震災と原発事故。現実は大に膨大であり、人間はすばらしい反面なんとおろかなのだらうと考えさせられました。私たちは被害者であると同時に加害者でもありません。地球に生きる人間としてできることをしていく、そういうことでしょうか、この膨大な現実に向かい合うこ

とはできないと思ひます。私たちは今、組合員は組合員として、ワーカーズはワーカーズとして、職員は職員として、それぞれがすべきことをきちんとやり抜いています。一人ひとりができることをして、まなじり上げて、連帯の力をより強くし、したたかに、しなやかに、現実の中を生き抜いていきたいと、改めて思ひました。どの報告も大変すばらしく、助けあい支えあい、そしてグリーンコープ運動が地域に広がっていくという今回のテーマにふさわしい内容の集会でした。約900人が集い、これまでで最大で最高の会となりました。

代理人・ネットワーク運動報告

代理人運動は、暮らしの課題を解決するために、議会に代理人(議員)を送り出してきました。現在、福岡県内には9つの地域ネットワークがあり、6人の代理人が活動中。熊本県には2つの地域ネットワークがあり、1人の代理人が活動しています。今回の原発事故は私たちの生命と暮らしにかかわる重大な出来事です。今こそ、「原発を止める」ために、政策決定の場である議会に生活者の声を届けなければならぬと強く思ひます。「これ以上、水や大地や食べものを放射能で汚してはならない」。次の世代のために何が出来るかを一人ひとりが真剣に考えて政治に参画することが必要です。そのために、組合員、ワーカーズと共に代理人運動を広げていきたいと思ひます。

食育の会 わくわく



子ども料理教室の様子

2006年からくまもと37地区で開催してきた「子ども料理教室」の経験を基に、今年4月にワーカーズとして新しい一歩を踏み出しました。子ども料理教室では、まな板の上の魚に包丁を入れることができなかった子どもが、スタッフのサポートで調理し、食べ、「おいしい」と笑顔になります。五感を使い自分で調理することで自信や達成感を得ながら生きる力をつけてほしいと活動をはじめました。私立幼稚園や店舗での料理教室など地域への広がりを見せています。これからも活動をおとせして食べもの大切さ、楽しさを伝えていきます。

店舗ワーカーズ連絡会



お店での試食の様子

グリーンコープエリアにはワーカーズが運営するお店が30店舗あり、約500人のワーカーが活動しています。現在、お店を地域の大きな班として捉える「お店共同購入」へと大きく生まれ変わるための取り組みがすすんでいます。そのためには、お店が地域の組合員のものになるように、多くの組合員がかかわってのお店づくりが必要です。ふくおかでは「わくわくワーク」で組合員が店の仕事を手伝ったり、お店のまつりなどにも一緒に取り組んでいます。くまもとでもワーカーの「地域に暮らす生活者の視点」を生かして、地域の人が気軽に集えるお店づくりを組合員と共にすすめています。

生活再生ワーカーズとも

経済的な困難を抱える相談者の生活再生をサポートする生活再生事業がスタートして5年。これまでに1200件の相談、7億円の貸付を行ってきました。2010年秋、相談員が単協の枠を越え力を発揮していくために、ワーカーズを立ち上げました。生活再生事業を共に担う、家計とくらしのワーカーズ円縁とは、2年目となる家計調査研究でも連携して取り組んでいます。現在、8つの相談室(ふくおか・くまもと・おおいた・やまぐち・長崎)の5単協のワーカー18人で、福祉活動組合員基金の助成を受けながら、「ともに」の名の通り、相談者に寄り添い、ともに考え、相談者の生活の再生につながるよう、相談事業を行っています。ワーカー同士が互いに切磋琢磨しながら、相談員としてのレベルアップに努めていきたいと思ひます。

家計とくらしのワーカーズ円縁

4年前に初めてのオールグリーンコープワーカーズとして発足し、現在16人のメンバーで活動しています。「家計とくらしの応援活動」に加え、2011年度はワーカーズ間の助けあいの仕組みとして「ワーカーズ共済」を福祉ワーカーズ連合会と共に開発。5月より共生ネット小額短期保険(株)代理店として推進しています。「ワーカーズ共済」は、私たちワーカーが安心して仕事が継続できることで、

ワーカーズ運動と事業の広がりに寄与できる仕組みの一つです。その他、グリーンコープ共済の給付業務、各単協の家計簿クラブでの学習会、ライフプランなどの学習会(講座)、PTAや学校の学習会など活動の幅も広がってきました。今後はワーカーがさらに力をつけて、地域からの要請にも積極的に応えていきたいと考えています。